

愛媛小林製薬(株)環境活動レポート

対象期間: 2014年4月～2015年3月
2015年5月 発行



<目次>

環境方針

組織の概要

対象範囲（認証・登録範囲）、
レポートの対象期間及び発行日

事業活動に伴う環境への負荷

環境活動計画

環境目標と実績

環境活動計画の取組結果

環境活動計画の取組結果の評価

次年度の取組内容

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境会計

代表者による全体評価と見直しの結果



環 境 方 針

● 環 境 理 念

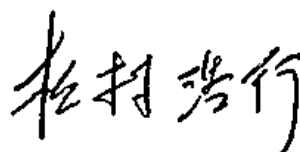
私たちは、小林製薬グループの環境宣言に基づき、環境保全活動を重要な経営課題として強く認識し、社長以下全員参加で、自主的・積極的に地域社会及び地球環境保全への貢献と共生を目指します。

● 環 境 行 動 指 針

- ① 環境関連の法規制を遵守することはもとより、自ら環境改善目標・自主基準を定め継続し実行します。
- ② 環境汚染を予防し、廃棄物の削減と資源のリサイクルの推進、省資源、省エネルギー、節水に努めます。
- ③ 環境に配慮した原資材の調達、製造、製品供給を行います。
- ④ 地域社会に対して、環境活動を支援するとともに、コミュニケーションに努めます。環境活動レポートを作成し、事業所のみならず、環境への取組みを情報公開いたします。
- ⑤ 環境理念および環境行動指針を全社員で共有し、教育・啓発活動を通して、一人一人の環境保全意識の向上に努めます。

2003年11月1日制定
2010年 8月1日改訂

愛媛小林製薬株式会社 代表取締役社長



組織の概要

1. 事業所名及び代表者氏名

愛媛小林製薬株式会社 代表取締役 社長 まつむら ひろゆき 松村 浩行

2. 所在地

〒792-0892 愛媛県新居浜市黒島1丁目7番24号

3. 事業活動の内容

医薬部外品、化粧品、その他衛生材料並びに不織布製品、日用雑貨品の加工及び製造

4. 主な製造品

小林製薬株式会社 商品

- ◇パンティーライナー（サラサーティ関連）
- ◇解熱用ゼリーシート（熱さまシート）
- ◇マスク（のどぬーる ぬれマスク）
- ◇汗とりパット（あせワキパット）
- ◇めがねふき（メガネクリーナーふきふき）
- ◇電子レンジクリーナー（チン！してふくだけ）



5. 環境管理責任者及び担当連絡先

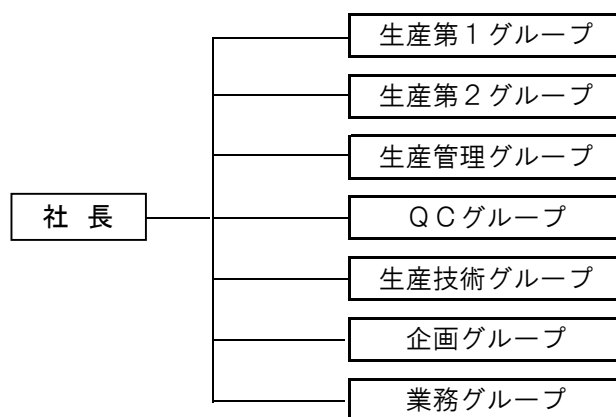
責任者 管理グループ 仲野 正雄
 担当者 業務グループ 藤田 末広
 連絡先 電話 0897-45-3777
 FAX 0897-45-4111

6. 事業の規模

年度	2014	2013	2012	単位
生産量	5,439	4,916	4,978	t
売上高	4,448	4,257	4,420	百万円
従業員数	148	134	137	人
床面積	9,410	9,410	9,410	m ²

対象範囲、レポートの対象期間および発行日

1. 認証・登録範囲 愛媛小林製薬株式会社 下記組織



2. 報告対象期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

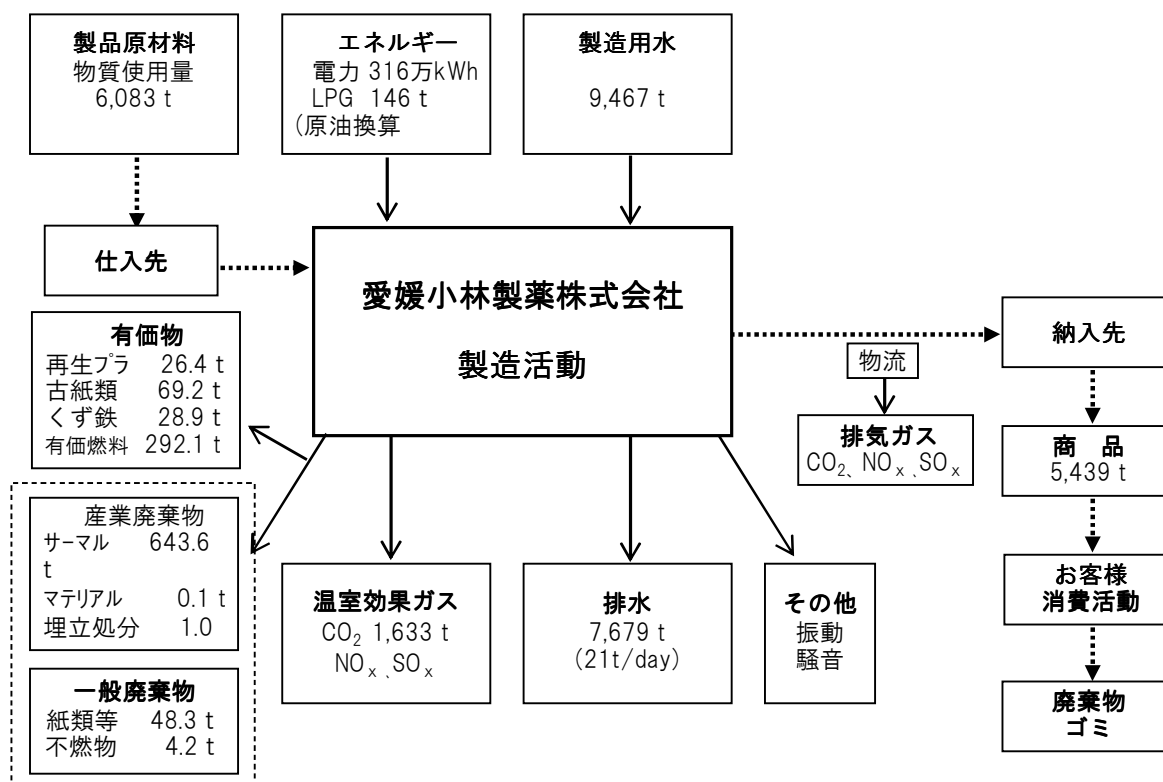
3. レポートの発行日 平成27年 5月発行

事業活動に伴う環境への負荷

事業活動に伴う環境への影響には、次のようなものがあります。

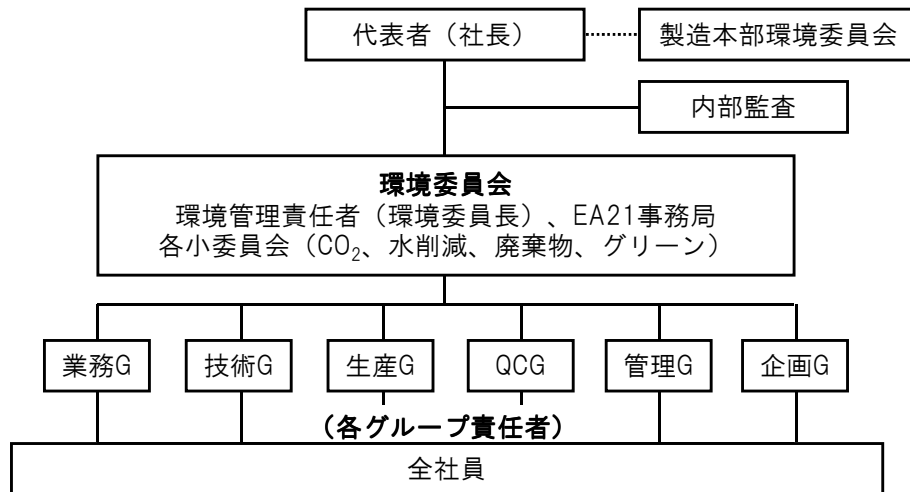
- ◆ 生産活動で生じる環境への影響
- ◆ お客様に製品をお使い頂くことで生じる環境への影響
- ◆ 製品を作るための原材料として使用する化学物質の環境への影響

事業活動における物質フロー（2014年度）



環境活動計画

1. 環境対応組織図



2. 環境委員会

- ・ CO₂削減小委員会
- ・ 水削減小委員会
- ・ 廃棄物削減小委員会
- ・ グリーン小委員会

3. 従業員の健康対策

- ・ 6S（安全衛生）委員会：産業医による毎月1回の定期巡回
- ・ 有機溶剤関連の作業環境測定と定期健康診断

4. 環境目標設定について

- ・ 国や地方自治体の法規制を遵守します。
- ・ 小林製薬製造本部の目標達成のため愛媛小林製薬株式会社の目標を設定します。
- ・ 愛媛小林製薬株式会社の製品の特徴、地域性を考慮し、環境負荷の大きい所から重点的に目標を設定します。

5. 報告書の作成

2000年度より毎年1回環境活動レポートを発行。

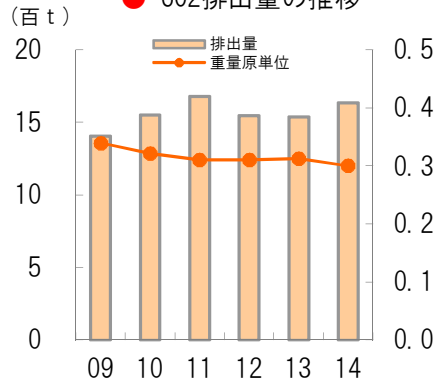
環境目標と実績

年度		2009	2010	2011	2012	2013	2014	
目標と実績		基準(※)	実績	実績	実績	実績	目標	実績
生産量 (t/年)		4,144	4,827	5,405	4,978	4,916	—	5,439
CO ₂ 排出量	総量 (t-CO ₂ /年)	1,405	1,551	1,677	1,545	1,536	—	1,633
	生産量当り (t-CO ₂ /t)	0.339	0.321	0.310	0.310	0.312	0.331	0.300
	基準からの削減率	—	5.2%減	8.5%減	8.5%減	7.8%減	2.5%減	11.4%減
廃棄物排出量	排出量 (t/年)	982	1,070	1,097	1,065	1,054	—	1,114
	生産量当り (t/t)	0.237	0.222	0.203	0.214	0.214	0.231	0.205
	基準からの削減率	—	6.5%減	14.4%減	9.7%減	9.5%減	2.0%減	13.5%減
リサイクル率 (%)		99.54	99.59	99.59	99.97	99.97	99.0以上	99.97
水使用量	総量 (m ³ /年)	7,240	7,644	8,100	7,442	10,217	—	9,467
	生産量当り (m ³ /t)	1.747	1.584	1.499	1.495	2.078	1.703	1.741
	基準からの削減率	—	9.4%減	14.2%減	14.4%減	18.9%増	2.0%減	0.4%減
OA用紙使用量	総量 (A4換算枚/年)	162,431	173,902	180,662	183,560	159,760	159,182	152,964
	基準からの削減率	—	7.1%増	11.2%増	13.0%増	1.6%減	2.5%減	5.8%減
グリーン購入推進(購入率%)		75.9	77.0	78.3	78.8	72.0	—	71.1

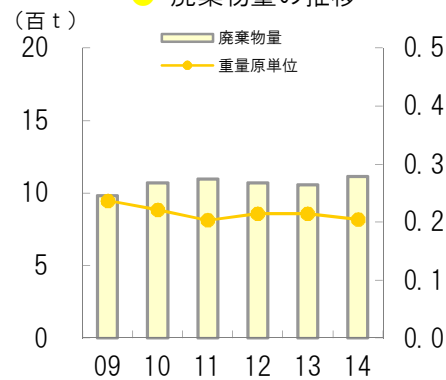
※ 単年度および中長期目標は2009年度実績値を基準とする。

※ CO₂排出量における排出係数は、電力：0.378kg-CO₂/kWh（四国電力平成21年発表）、LPG：3.002kg-CO₂/kg-LPG（環境省平成15年発表）を用いた。

● CO₂排出量の推移



● 廃棄物量の推移



2015年度目標と中期目標

		2014年度実績	2015年度目標	~2017年度中期目標
CO ₂ 排出量削減	生産重量原単位	0.300	0.298	0.295
	削減率	基準	0.5%	1.5%
産業廃棄物量削減	排出量	645	638	625
	削減率	基準	1%	3%
	リサイクル率 (%)	99.8%	99.5%	99.5%
水使用量削減	生産重量原単位	1.741	1.732	1.715
	削減率	基準	0.5%	1.5%
グリーン購入		資材における消費の無駄削減施策の実用化 2件/年		
自らの製品への環境配慮		製品における供給の無駄削減施策の実用化 1件/年		

※ 単年度目標は前年度実績、中長期目標は2014年度実績値を基準とする。

環境活動計画の取組結果

1. 過去3年間の主な環境投資

- 二酸化炭素削減
 - ・第1期棟にエアコン集中管理システム導入。
 - ・ガスエアコン3台を高効率型に更新。定格20%のCO₂削減。
 - ・コンプレッサー1台更新および熱排気効率の改良による省エネ化
- 廃棄物量削減
 - ・廃プラスチックをマテリアルリサイクルするための圧縮減容機導入
- グリーン購入（資材消費量削減）
 - ・サラサーティ生産設備改造投資により、トリム（繰抜き）屑を7%削減

2. 主な環境活動

- 二酸化炭素削減
 - ・工場内172灯の照明をLEDに変更により72千kwh/年の電気使用量を削減。
 - ・電力監視システムによるブランド別の電気使用状況の分析。
 - ・エアコン集中管理システムによる休憩時のエアコン出力カット。
 - ・クールビズ活動 5月～10月のオフィス室温を28℃で管理。
 - ・消し忘れ防止の啓発活動。
- 水使用量削減
 - ・構内埋設配管更新の検討 2015年度予算化
 - ・調剤洗浄水使用量調査
 - ・水道水漏れ点検による漏水修理
 - ・節水強化ポスター啓発
- 廃棄物量削減
 - ・ロール資材使用後残量削減による廃棄物削減
 - ・12項目の設備の改良や設定変更に取り組み、2 tの廃棄ロスを削減
 - ・PEフィルム類を分別してリサイクルプラボードの原料に供給
 - ・産廃委託業者監査により適切な処理を確認
 - ・リサイクル率99.5%以上
- グリーン購入、OA用紙使用量削減、自らの製品に関する環境配慮
 - ・不織布抜刃型の改良による製造時の資材消費量削減
 - ・グリーンマーク事務用品の優先購入
 - ・両面印刷、裏面使用による削減
 - ・書類の重要度に応じて更紙（坪量25%減）と白紙の使い分け
 - ・消せるインクやラミネートを使用したパレット原票の再使用
 - ・製品中の接着材使用量削減
- 環境関連法規の遵守
 - ・小林製薬環境委員会による内部監査の実施
- 環境コミュニケーション
 - ・年2回黒島公園清掃活動
 - ・リサイクルの収益金より新居浜市の小学校に図書を寄贈
 - ・訪問者への環境レポートの配布

環境活動計画の取組結果の評価

1. 二酸化炭素削減

排出源となる電気の使用状況を分析するため、設備別の消費量を計測する「電力監視システム」を構築し、負荷の発見や節電施策の効果を評価してきました。

24時間操業の工場では照明による消費電力が多い事に注目して照明のLED化を進め、これまでに場内の主要箇所600灯以上をLED灯に更新しております。

今期の排出量は5年前（基準）の11.4%減（重量原単位）となり、目標を達成しました。

目標達成の評価 ◎

2. 水使用量削減

2009年に冷却ジェルシート「熱さまシート」の生産を開始して水使用量は増加しました。対策としてタンクの洗浄方法を高圧洗浄から拭き取りアルコール洗浄に変更（-8 t /月）や、精製水装置の排水比率見直し（-40 t /月）により、使用量削減に取り組んでいます。

前期は埋設水道管の破損が影響して増加しましたが、今期の使用量は5年前（基準）と同じ水準を維持しています。

目標達成の評価 ○

3. 廃棄物削減

化学繊維を主成分とする不織布加工で発生する廃棄物の90%以上は廃プラスチック類であり、その削減と再利用化に取り組んできました。

最初に不燃物の分別により大部分をサーマルリサイクル化、次に年間25 t のPEフィルム類を再生リサイクルに、先年よりは良質な廃プラ屑を有価燃料に転換する事により産業廃棄物量の大幅な削減と処理費の節減を実現しました。

また、今期も生産現場が主体となって細やかな設備改良と設定変更に取り組み、従来より2 t の廃棄ロスを削減しております。

リサイクル率は99%以上（ゼロエミッション）を10年間継続しています。

目標達成の評価 ◎

4. OA用紙使用量削減、グリーン購入推進、製品への環境配慮

前期より開始した書類用紙の使い分けを継続、報告書や契約書など特に重要な書類のみ上白紙を使用し、通常使用する紙は従来より25%坪量が少ない低質紙（更紙）としました。この目付削減効果を枚数に換算した結果、3万枚の削減となりました。

従来の活動である裏面印刷や熱で消えるインクを使つてのパレット原表再使用も継続し、2014年度のOA用紙使用量は、2009年度に比較して5.8%減少しました。

目標達成の評価 ◎

資材を消費して生産した製品は、お客様が使用された後、やがては廃棄物となります。

無駄な原資材消費（購入）の抑制と製品中の過剰な資源を削減する事が、生産者にとってのグリーン購入であり製品への環境配慮であると解釈し、コストダウンの視点より取り組んできました。

今期は13百万円の投資により主力製品サラサーティの製法を改良し、従来より資材ロスを抑制して生産する事が可能になりました。また、原紙を貼合する接着材の削減など13項目の取組みの結果、42百万円の経済効果となりました。

5. 化学物質の安全管理

◆有機溶剤の取り扱い管理

有機溶剤取り扱い作業では局所排気装置とドラフトチャンバーを使用。
作業環境測定結果では第一管理区分を維持。

特化物指定のクロロホルムを使用した試験分析は廃止しました。

◆PRTR対象物質

該当物質の使用はありません。

6. 水質汚濁防止対策

生産排水は浄化処理しており水質汚濁防止法の一律基準以下となっています。

7. 環境コミュニケーション

新居浜市里親制度による黒島海浜公園のボランティア清掃は、11年目
23回目となりました。

廃棄物の分別による収益金より新居浜市の5小学校に図書を寄贈。3年間で
市内全17校への寄贈を完了できました。

次年度の取組内容

2015年度は、下記内容を中心に活動します。

活動項目	内 容
●二酸化炭素削減	・コンプレッサー台数制御装置更新による効率運用 ・建屋の遮熱施工効果の研究 ・LED照明増設
●水使用量削減	・埋設配管更新による漏水対策 ・精製水使用量の把握と管理 ・節水啓発と漏水調査
●廃棄物量削減	・産業廃棄物から有価物への転換 ・埋立廃棄物の分別見直しによるリサイクル率99.5%維持 ・処分業者の現地調査による適正把握
●グリーン購入、自らの製品に関する環境配慮	・余剰となる原資材消費（購入）量の削減 ・製品に含まれる過剰な原資材の削減
●社会貢献活動	・黒島公園清掃活動（年2回） ・環境活動収益からの地域貢献活動

環境関連法規等の遵守状況の確認および 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規への違反ならびに訴訟はありません。また、関係当局よりの違反等の指摘は
過去3年間ありません。

環境会計

(1) 集計方法

- (1) 環境庁「環境会計システム導入のためのガイドライン（2000年版）」に準拠
- (2) 環境保全活動の費用（減価償却費を含む）、投資、効果を集計しています。
- (3) 効果は、環境保全効果（物量単位）と経済効果（貨幣単位）を集計しています。
- (4) 経済効果は実質的效果のみ対象としています。

(2) 集計結果

集計範囲：（愛媛小林製菓株式会社） 対象期間：（平成26年4月1日～平成27年3月31日）
 単 位：（千円）

環境保全コスト				
分 類		主な取組の内容	投資	費用
(1)	生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト （事業エリア内コスト）	大気汚染防止・水質汚濁防止 騒音防止・悪臭防止 省エネ対策 廃棄物処理	15,855	27,543
内 訳	①公害防止コスト	大気汚染・水質汚濁・悪臭防止		3,598
	②地球環境保全コスト	省エネ	2,990	11,560
	③資源循環コスト	廃棄物処理費用	12,865	12,385
(2)	生産・サービス活動に伴って上流又下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト （上・下流コスト）	容器包装リサイクル委託費用		
(3)	管理活動における環境保全コスト （管理活動コスト）	教育・環境保全担当者人件費		10,388
(4)	研究開発活動における環境保全コスト （研究開発コスト）			
(5)	社会活動における環境保全コスト （社会活動コスト）	緑化・美化・社会貢献		219
(6)	環境損傷に対応するコスト （環境損傷コスト）			
合 計			15,855	38,150

環境保全効果				
効果の内容		環境保全効果を表す指標		
		指標の分類	2013	2014
事業エリア内コストに対応する効果	①事業活動に投入する資源に関する効果	二酸化炭素排出量売上原単位 (Kg/千円)	0.360	0.367
		二酸化炭素排出量重量原単位 (Kg/k g)	0.312	0.300
		電力消費量原単位 (KWh/k g)	0.613	0.580
		エネルギー消費量原単位 (KL/t)	0.193	0.184
	②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	産業廃棄物発生量 (t)	703	645
		産業廃棄物削減率 (%)	20.4%減	8.4%減
		産業廃棄物リサイクル率 (%)	99.68%	99.84%
		産業廃棄物量生産重量原単位 (t/t)	0.143	0.119

環境保全対策に伴う経済効果		
効果の内容		金額 (千円)
収 益	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクル又は使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	524
費用節減	省エネルギーによるエネルギー費の節減（前期差）	1,322
	省資源又はリサイクル活動に伴う廃棄物処理費の節減（前期差）	1,921
	省資源による費用節減	41,894
合 計		45,662

代表者による全体評価と見直しの結果

評 価

2014年度は廃棄物削減活動、電気使用量の削減活動、水使用量の節約等に積極的に取り組んでいただきました。

廃棄物削減活動においては、不織布抜刃型の改良によるトリム屑の削減等を積極的に進めていただき、大きな成果を上げることが出来ました。

電気使用量の削減については、作業室のLED照明化等に取り組み、電気使用量の削減はもとより作業室の照度アップなどの効果もあり、非常に良い活動であったと思います。

水使用量については、昨年度埋設水道管の漏水対策を実施して以降、抑えることが出来るようになってきています。

2015年は更なる環境負荷削減に向けて、以下のような活動を中心に進めて頂く様にお願いします。

見直し

今期の結果を踏まえ、各小委員会は次の点に注力してください。

①CO₂削減

コンプレッサーの台数制御などを工夫し、電気使用量の削減からCO₂削減に取り組んで頂きたいと思います。また、大型環境投資は、これだけではなかなか費用対効果が得られにくいいため、老朽化更新対応時などに同時に環境対策も考え、両方を目標とするような投資プランの策定を考えて頂きたいと思います。

②水削減

増大する熱さまシートの生産に対して、如何に無駄な水使用を削減していくかを考えて頂きたいと思います。そもそも、工場全体としてあまり水を使用していませんので、なかなか効果を得ることは難しいと思いますが、少しでも節約できる策を模索していきましょう。

③廃棄物削減

廃棄物をもっと有価燃料として利用できないか？未圧縮の不織布廃棄物を有価燃料として利用できる手段を考えて頂きたいと思います。

④その他

愛媛小林には生産性改善のコストダウン活動は活発に行っていますが、実はこれらの活動は環境負荷の改善にも繋がっていることが多いかと思えます。しかし、これらのコストダウン活動は環境負荷改善活動としてはほとんど見える化されていません。是非とも本年度はこれらの活動を環境負荷改善活動としても見える化できるようにお願いします。

2014年度の環境保全活動の取り組みをまとめ、環境活動レポートを作成しました。今後とも環境対策を事業活動の根幹に据え、環境保全活動に継続的に取り組んで参ります。